

奈良言友会会報

まほろば



あしひきの 山の黄葉 今宵もか 浮かび行くらむ 山川の瀬 (万葉集巻8-1587)

写真は、みたらい溪谷 (天川村)

第13号

平成26年10月発行

第3回ことばの親子交流会

堀 茂

今年の「ことばの親子交流会」は7月26日、奈良言友会の主催で、「独りじゃない、仲間の存在が、吃音の子ども達の生きる力を育む」を願って、昨年と同様、生駒山麓公園（奈良県生駒市）で開催されました。

参加したのは、奈良県下の吃音のある子どもときょうだい21人、保護者17人、ボランティアスタッフとして、ことばの教室などの先生、医師、看護師、言語聴覚士などの専門職の方々、言語聴覚士養成校の学生、奈良言友会の当事者に、名古屋言友会、鹿児島言友会からの応援も加わって計23人、全部で61名の大勢が集いました。毎年参加する家族も多く、「楽しみにしてたんですよ」と笑顔のお母さん、こども達も元気に嬉しそうに来場するのを見て、今年も実施できてよかったと思いました。

午前10時の開始、子どもたちはスタッフとチームを組んで、フィールド・アスレチックに挑戦。暑い中、水分を十分に補給しながら、元気にあそびました。おとなは屋内で研修。今回は、吃音と向き合うためのドキュメンタリー映像集「ただ、そばにいる」の作者、北川敬一氏をお招きしての研修。DVDで作品の一部を鑑賞してから、北川さんを囲んで、話し合い、学び合いました。DVDの中の重松清さんのお話は深く心に残りました。

子ども達が外から戻ってお風呂で汗を流してから、全員が会場にあつまり昼食をとりながらの交流。サンドイッチ、お茶やジュース、お菓子をいただきながら、にぎやかに過ごしました。食後、子ども達はバルーンアートにとりくみました。おとなは保護者同士、またスタッフの専門職の方々や言友会の当事者と、それぞれ自由にことばを交わし、話し合い、午後4時、会を終えました。

実施したアンケートでは、「楽しかった」「親子で参加できてよかった」との声が多く、「道が開けたように感じました」との声もありました。みなさんの声を聞いて、来年はもっとよい会にしたいと意欲がわきました。

参加されたご家族と子ども達、ボランティア・スタッフとして文字通り自発的に参加いただいた方々、手弁当で参加くださった北川敬一さんはじめ、協力いただいた方々に心から感謝いたします。





天羽 郁子

本年度も、奈良言友会主催の「ことばの親子交流会」が、7月26日生駒山麓公園で開催されました。奈良言友会会員の「子どもたちのためにやろう!」という熱意と行動力で、言友会結成の年から始めた「ことばの親子交流会」も本年度で3回目となりましたが、毎年晴天に恵まれ、会員に晴れ男・晴れ女が多いのではと思っています。

天候が良いおかげで、子どもたちはフィールドアスレチックで思いっきり活動しました。グループの年上の子がリーダーになり、年下の子どもを気遣い、みんなでゴールすることができました。また、京都・名古屋言友会の方々や言語聴覚士を目指す学生ボランティアの方々が、子どもたちをサポートしていただき、子どもたちには、頼もしいお兄さんお姉さんたちの存在となりました。

保護者研修会は、青木さんのご尽力で、吃音のある子どもたちを中心に取材と撮影を行ったドキュメンタリー映像集「ただそばにいる」の製作者北川徹一さんに来ていただくことができました。「ただそばにいる」の映像を見たり、北川さんのお話をお聞きしたりし、今回も充実した研修となりました。北川さんが、気さくな方で、研修会後の後の昼食をとりながらの交流まで参加して、保護者の皆さんと親しく話をしてくださったので、「とても参考になった。」「参加してよかった。」と大好評でした。

本年度は、バーベキューではなく、テーブルをグループにしての昼食会でしたが、かえって落ち着いてじっくり、いろいろな人と話せたと参加者に言っただけ、今までと一味違った交流会が開催できました。

例会報告

7月6日 第1部 演劇で吃音改善

参加7名

担当・報告：山崎

歌うときはどもりませんよね。それと同じで大きな声で話すときはあまりどもらないのではないのでしょうか。大きな声を出すには息を吸い込んでお腹に力を入れて吐き出さなければならぬので自動的に腹式呼吸になり、話すスピードもゆっくりになるからです。まずは返事の「はい」から始めます。単に「はい」と言うのではなく「は〜い」「はい〜」と感情を込めてイベントのMCのような感じで言います。次に「おはようございます」「ありがとうございます」や自分の名前といった挨拶の基本形を普段とは違う自分になった気持ちで抑揚を付けて言います。それから短い目の会話文、そして長いセリフに挑戦していきました。初めは恥ずかしいですが、慣れると快感に変わってきます。皆さん、たまには大きな声で叫びましょう。 「アムロ、行きま〜〜す!!」

<参加者の感想>

- 普段の自分でない、役者になったような気分でした。N.Y
- 演劇のトレーニングは、定期的に行っていければと思います。I.H
- 何かになりきるということは楽しく、気持ちよかったです。T.H
- 今日は役になりきれず照れてしまいました。自分から離れられなかったということでしょうね。日常生活でも演劇的に話ができるようになればいいなと思いました。H.S
- 大声で話す練習をして気持ちがスッキリしました。また感情を込めて話すのは楽しく感じました。M.Y
- 大きな声で話すとき自然にゆっくりしたしゃべりになるということは勉強になりました。(なかなか大きな声でしゃべることはできなかったですが) N.A
- 日常生活に演劇の要素を取り入れるとおもしろいと思いました。Y.T

第2部 どうしても平気。お話ししよう。絵本「桃太郎」の語りきかせ 担当：西村 報告：堀

担当の西村さんの発案で、日本の代表的な昔話「桃太郎」の絵本を順に回して、それぞれが自由にお話をふくらませて、面白く、子どもに語り聞かせるように話すということをしました。みなさん童心に返ったように、お話を楽しみました。私たちはとにかく一生懸命話すことになりがちですが、楽しく話すというのは大事なことだなと感じました。

はじめの方で、西村さんが、吃音の人は日頃、言い換えをしたり、助走語をつけたり、いろいろ工夫しながら生活を乗り切っている。「どうしても困らないマニュアル本」があればいい、という話をされましたが、同感です。そんな本を言友会でつくりませんか。

<参加者の感想>

- 話すには想像力と相手を喜ばそうというサービス精神が必要だと分かりました。Y.T
- 桃太郎を題材にして会話のトレーニングをするのが斬新でよかったです。I.H
- 分かりやすく伝えるという事は、自分の言葉にすればいいのではと気づきました。T.H
- 桃太郎の話を子どもに聞かせるようにお話しするのはグッドアイデアですね。楽しみながらしました。H.S
- 桃太郎の話を説明するのが面白かったです。M.Y
- 絵で見ればすぐ分かることでも、言葉で伝えることはむずかしいことだと改めて思いました。N.A
- 言葉で相手に分かりやすく伝えることの難しさを改めて考えさせられました。N.Y

9月7日 映画上映「英国王のスピーチ」

参加7名 担当：三島 報告：堀

「英国王のスピーチ」は2011年のアカデミー作品賞を受けた映画ですが、本当に充実した見ごたえのある映画ですね。私は以前、映画館で見てから今回2度目ですが、見る度に新たな味わいが出てきます。映画会は三島さんの提案、担当でしたが、三島さんは早い時間から来て器具の設置配線など準備に当たり、手持ちのDVDで上映していただきました。

主人公はジョージ6世になるヨーク公。兄王が結婚問題で退位し、弟のヨーク公が後を継ぐという実話に基づいた話の展開は実に見事で飽きさせません。吃音のある国王がドイツとの開戦に当たって国民に呼びかける放送を言語聴覚士ライオネルがどのように支援するかと興味津津で見えていましたが、そのやり方はアッと驚くようなものでした。放送の本番でライオネルが立ち会い、国王の前に立って、オーケストラの指揮者のような身振りで国王のスピーチを支援します。型破りではありますが、納得できました。ライオネルは、ヨーク公との信頼関係をつくるように、また彼が国王としての自信がもてるように働きかけました。彼はことばの指導をしたというより、国民へのスピーチを目標にして共同作業として国王を支援したと思います。その姿勢は、「現場で勝負」ということでしょう。放送が始まる直前、ライオネルは「私だけに向かって話しなさい。私たちは友達だ」と言います。ライオネルは国王の言葉を支えただけでなく、心を支えた。国王を支えたのは二人の信頼関係でもあったろうと思います。また、妻エリザベスの献身も、ヘレン・カーターの名演技と相まって、忘れがたいものでした。

国王の責務は大変なものと思いますが、吃音の体験でいえば国王であれ一般国民であれ共通のものがあるでしょう。私は小学生のとき、全校生徒が集まった講堂でスピーチするように言われて壇上で立ち往生したことがありました。国王の体験はまさに私自身の体験だったと思います。この体験は長く心の傷として残りましたが、世の中には、吃音のことを知らない人や、知っていても、大した問題ではないと思っている人も少なくないでしょう。この映画が、吃音のひとの苦しみ、悩みを世界の多くのひとに知らせたという意義もあると思います。

まだこの映画を見ていない人は、ぜひ見られたらよいと思います。私（堀）もDVDをもっているのでお貸しできます。

10月5日 第1部 吃音のある人への社会的支援について(国際吃音啓発の日にちなんで)

参加9名 担当：後藤 報告：堀

全言連の社会的支援のプロジェクトは大まかに言えば①吃音の認知を広げる。②医療機関への働きかけ ③障害認定の検討、の3つに分かれるようです。国際吃音啓発の日(ISAD)のチラシを配布しましたが、全言連でISADの行事を担当している青木さんによるとチラシの作成にあたって、吃音で困っている状況がよくわかるようにデザインしたとのことでした。このように吃音の日を設定してイベントを行ったりすることも、吃音のことを広く世間にしてもらおうという社会的支援の一環です。

また②の関係では、吃音の診療のできる専門職を増やしたいということで今年の12月7日に大阪で成人吃音の臨床研修会が開かれます。また、後藤さんは、この8月に福岡市志免町の社会福祉協議会職員の研修会で講演と福岡言友会の方々との意見交換会を行い、吃音を、制度の手当が及ばない他の問題と同じく「狭間の問題」ととらえて、社会的な支援の必要を語ってこられました。

今日は吃音者の社会的支援のあり方について話し合いましたが、障害認定の問題でもいろいろな意見がでました。吃音が発達障害にひとつとして認定されるが、実際には福祉の担当者もそれを知ら

ないなどの現状があります。障害認定は支援のしっかりした道筋がなかったら単なるレッテル貼りになりかねません。

後藤さんからの「あなたは障害認定を受けたいですか？」との質問に、「自分は受けたくない」という人の方が多かったですが、言友会であれば、身近に吃音で非常に困っている人がいれば、「自分には関係のないこと」ではなく、相談にのり、一緒に問題を考えるでしょう。吃音のある人のニーズ、状況はひとり一人違うのだから、必要な支援も個別的に考えていく必要があるでしょう。

奈良言友会では毎年、ことばの親子交流会や吃音セミナーin 奈良を行い、言友会のメンバーにはスタッフとして働いていただきましたが、これらの行事も立派な社会支援です。

さらに社会に支援を求めるだけでなく、私たち自身が、社会でちゃんとやっていく努力や工夫、そして私たちがどう社会に役立っていけるかも考えていきたいと思います。

<参加者の感想>

○議題について色々な意見が出ていたと思う。T.J

○吃音に対して色々な考えがあることを知ることができてよかったです。 NA

○耳が遠いので、皆の話が聞きづらいです。SK

○活発な意見が出て、参考になりました。IH

○今の吃音の状態を考え、方向性が分かったのでよかったです。T.H

○吃音の社会的支援について、みなさんで考えることが出来てよかったです。AA

○社会的支援のためにいろいろ意見がでてよかったです。MG

○みなさんの意見や思いを今後とも聞いていければと思います。GB

第2部 ヨガで心と体のリンクを

参加9名 担当：報告 峠谷

人前で話すことも多く、話すことに慣れていないはずですが、負のスイッチが入ると、咳が出たり、口が乾き喋りにくくなります。そんなときはいつも浅い呼吸です。焦り、緊張が浅い呼吸になっている自分の体に気づき、深い呼吸を導くには…と探し求めてヨガに出会いました。肩甲骨、鎖骨、リンパの流れを意識して体を動かすと、自然にリラックスしていく自分を感じる事が出来るようになりました。

言友会でのヨガ教室では「体の力を抜いて下さいね…」と言ったにも関わらず、全ての方の体は力が入っていました。自分の体は自分が一番知らないのかもしれない。ヨガ例会では自分の体を感じるお手伝いができたのではないかしらと思っています。

同じ時間を過ごせたことを感謝いたします。ありがとうございました。

(峠谷さんは職場などで10年くらいヨガの指導をされています)

<参加者の感想>

○ヨガに興味があったので、とても楽しめました。T.J

○始まる前にコリがあった右肩が、終わった後は軽くなりました。NA

○ヨガがとてもよかったです。SK

○ソフトなインストラクトでよかったです。からだをリラックスさせることはもっとやっていきたいですHS

○本格的な感じでよかったです。IH

○自分の体をこれからもケアしていきたいです。AA

○ヨガはとてもよかったです。MG

○肩の痛みがあったのでよかったです。運動不足なので運動しなければと思いました。GB

○少しでも体を大切にしてくれると感じてくれるだけでも、とても嬉しいです。T.H

あの人に会いたい

山崎 貴浩

小学校の低学年まで私はかなり腕白で、やんちゃで名前が山崎だったからあだ名は「やんちゃん」であった。2年生の時に理科で習ったばかりだから先生もさぞ喜ぶだろうと思い、近所の池で大きなウシ蛙を捕まえてきて教卓の上に置いてダンボール箱を被せて先生が来るのを待っていた。担任の先生は大学を卒業したての若い女の先生で、私へのお褒めの言葉を期待していたところ、失神寸前の悲鳴を上げられ、教室中大騒ぎになった。まじめにやったのにこれは心外であった。

売られた喧嘩は買っていたから、新学期の4月は毎日喧嘩に明け暮れた。クラスの悪ガキどもがお互いの腕力の程度がわかってくると教室は落ちついてくる。私の吃音の記憶は6歳くらいからであるが、小学校低学年では吃音で恥ずかしい思いをした記憶はほとんどない。低学年では学力よりも腕力が幅をきかせるので私の吃音のことをあえて指摘するクラスメートもいなかったのかも知れない。ただし、吃音のせいで私はあまり話さなかったからクラスの餓鬼大将になることはなく、相談役という感じの位置付けであった(笑)。小学校3年生の後半くらいから私はあまり喧嘩をしなくなった。読書を始めたのもこの頃である。自我に目覚めてきたのであろうか。これに比例して吃音の思い出も増えていくのである。そんなある日、クラスに転校生がやってきた。転校生はおとなしくしているものというのがその頃の一般常識だった。その転校生は玉井君といったが、転校生には珍しく非常に元気で生意気だった。それで私も彼と何回か取っ組み合いの喧嘩をしたのを覚えている。

さて、その頃、私たちの小学校にはまだ給食がなかった。だから週に3日ほどは弁当持ちである。冬になると教室に石炭ストーブが入って、その石炭ストーブの上にみんなアルマイト製の弁当箱を並べて暖めるのが日課であった。そんなあるとき、玉井君が乗せた弁当箱のフタがなにかの拍子に外れて中身が丸見えになった。玉井君の弁当には御飯と少し崩れた卵焼きしか入っていなかった。早速、餓鬼大将が玉井君の弁当の内容が貧弱なことを大声で冷やかした。それに対して玉井君は怒るでもなく静かにこう言ったのである。「お母ちゃんが朝早くから働きに行くから、俺は自分で卵焼きを焼いて、妹の分と2つ作ってるんや。その弁当のどこが悪いんや」その言葉は私には衝撃的だった。衝撃的という言葉で表現すべき人生で初めての出来事であったと言ってもよい。私には自分で弁当を作るという発想自体が無かった。「なんぼほどえらいやっちゃんねん」と感心した。というか打ちのめされた。口にはしなかったが・・・。その日家に帰ってから早速母親に卵焼きの作り方を教えてもらったのはいうまでもないが、母親も驚いたことだろう。それから私は玉井君と少しずつ話をするようになった。玉井君の家にはお父さんがいないこと、妹や弟がたくさんいること、家庭の都合でこれまで転校を繰り返してきたこと、などがわかった。一緒に遊びたかったが玉井君は弟妹の面倒を見るために学校が終わるとすぐに家に帰っていた。そして気がついたらいつの間にかまた転校してしまっていた。長く休んでいるなど思っていたら転校していたのである。「今日を最後に玉井君は転校します」という教室での型どおりの挨拶もなかった。何か事情があったのだろう。

今でも卵焼きを食べると玉井君のことを思い出す。ガッツのあった彼のことである。きっとどこかで成功しているに違いない。そして家族孝行をしていることだろうと思う。

これからの例会予定

日時：毎月第1日曜日 13:30 ~ 16:30

場所：奈良市はぐくみセンター（JR奈良駅西口 南へ歩3分）

開催日	前 半	後 半
10月5日	国際吃音啓発の日記念例会 担当：後藤 吃音の社会的認知の向上、社会的支援のために、私たちにできることは何か話し合います。	ヨガを体験 担当：峠谷 ヨガでからだと心をリンクさせよう。バスタオルと水（ペットボトル）を持参のうえ、動きやすい服装で参加してください。
11月2日	映画「青い鳥」上映会 原作：重松 清 主演：阿部 寛 担当：市田 いじめ問題が深刻化した中学校で、吃音の臨時教師が心に傷を負った生徒たちとぶつかり合う姿を描く。	
12月7日	体を動かしながら話す 担当：堀 歩きながら、板書しながら、ジェスチャーを使いながら話すなどいろいろやってみましょう。	アドラー心理学に学ぶ 担当：南 しあわせな人生をあゆむために
1月11日 (第2日曜)	ディベート 担当：山崎 あるテーマについて異なる立場から討論を展開します。最近ではゲームや競技としても行われています。	スピーチ・プレゼン それぞれの経験、見聞、所見などを出し合ひましょう。プリントや道具などを使うのも可。
2月1日	小児への吃音指導について 担当：天羽 ことばの教室での指導の実際を知り、こどもの吃音への対応からまなびます。	内容検討中 担当：青木
3月1日	スピーチ・プレゼン ひとによく伝わるよう、話し方に気をつけながらスピーチしましょう。吃音改善につながればラッキー	最近の吃音治療事情 担当：市田 治りにくいとされる成人の吃音、近年、効果をあげているセラピー例も報告されていますが・・・

<その他の予定>

- ・11月1(土)～3日 吃音ワークショップ in 名古屋
会員に限らず、皆さん参加しましょう。参加費補助あり（会員対象）。
- ・1月11日(日) 新年会。例会終了後、JR奈良駅周辺で行います。
- ・3月15日(日) 次年度例会プログラム検討会と奈良言友会定期総会

※予定は変更することがあります。

奈良言友会連絡先	堀 茂 (ほり しげる。わいと年配です。) 〒636-0915 生駒郡平群町春日丘2-13-15 TEL/Fax0745-45-2857 090-9610-6393 sigeru1030@yahoo.co.jp
	青木 明大 (あおき あきひろ。わいと若いです。) akihiro.aoki.16@facebook.com URL: https://www.facebook.com/akihiro.aoki.16

奈良言友会HP <http://nara-genyukai.jimdo.com/>
奈良言友会会報誌「まほろば」編集発行 山崎 貴浩